

サイバーセキュリティ戦略本部
研究開発戦略専門調査会
研究・産学官連携戦略ワーキンググループ
第4回会合 議事概要

1. 日時

令和2年9月10日(木) 16:30~19:00

2. 場所

Web会議形式での開催

3. 出席者(敬称略)

(主査)	森 達哉	早稲田大学理工学術院 教授
(委員)	秋山 満昭	NTTセキュアプラットフォーム研究所 上席特別研究員
	荒木 粧子	株式会社ソリトンシステムズ ITセキュリティ事業部/ Soliton-CSIRT エバンジェリスト
	須賀 祐治	株式会社インターネットイニシアティブ シニアエンジニア
	高橋 健太	株式会社日立製作所 主管研究員
	永山 翔太	株式会社メルカリ R4D(研究開発部門) シニアリサーチャー
	本間 尚文	東北大学電気通信研究所 教授
	山内 利宏	岡山大学大学院自然科学研究科 准教授
	山田 明	株式会社KDDI総合研究所 研究マネージャー
	吉岡 克成	横浜国立大学大学院環境情報研究院・先端科学高等研究院 准教授

(事務局)	山内 智生	内閣審議官
	吉川 徹志	内閣参事官
	上田 光幸	内閣参事官
	小西 良太郎	参事官補佐
	太田 陽基	参事官補佐
	中野 孝一	主査
	中尾 康二	サイバーセキュリティ参与
	八剣 洋一郎	情報セキュリティ指導専門官

(オブザーバー)	鵜飼 裕司	研究開発戦略専門調査会 委員
	木村 康則	研究開発戦略専門調査会 委員
	高島 洋典	国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター (木村委員同行)
	井上 眞梨	国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター (木村委員同行)
	内閣府	科学技術・イノベーション担当

4. 議事概要

(1) 研究・産学官連携の具体に係る議論について

前回の議論を踏まえ、日本の強みやポテンシャル、産学共同研究や研究領域の具体例等に関し、具体の議論を進めることとなった。適宜事務局から関連資料の説明を受けつつ意見交換・フリーディスカッションが行われた。概要以下のとおり。

日本の強みやポテンシャルの分析・整理

- 事務局より、前回 WG 資料 2-4 に基づき委員が回答作業を行ったものの第 0 次的なまとめ結果が示され、意見交換が行われた。強み分析の回答結果を加重平均した姿なども議論され、強み分析については今日の議論を踏まえて事務局が委員の専門的知見も得つつ、とりまとめ作業に入ることとなった。その際、領域の分類整理に関連して、暗号の扱いについて再度確認があった他、IoT セキュリティとセンサーセキュリティの関係、生体認証、産業制御システムセキュリティなど日本の強みがある程度認識されているものの扱いについて意見が交わされた。また、議論の中で、日本の強みを考える場合に、なぜ日本で暗号分野が 20 年以上に渡って成功し続けているか、その理由の分析が必要ではないかとの意見等があった。
- ポテンシャルの分析について、事実関係の確認並びに政策的な取り扱いについて意見が交わされた。事務局にてどうとりまとめていくか検討することとなった。

産学共同研究の具体例

- 事前に委員からそれぞれ提出された具体例のアイデア（資料 1-5）についてブレインストーミング的にフリーディスカッションがなされた。いくつかのアイデアは提出委員より説明を得て質疑と議論がなされた。連携を想定する業界によって、状況が異なるため、それを踏まえた検討が必要なこと、アイデアとしては幅広いものがありうるが、更に具体的な検討が必要であろうことが共有された。また、テーマによっては競合企業でも大学が間に入れば一緒に共同研究を実施できるとの意見や、テーマによっては官の関与が必要となる等の意見があった。
- また、こういった検討に際して、概念としてセキュリティ研究の「科学的基礎」はこのようなものと言語化して示すことは大事であり検討する必要があるのではという指摘があった。

(以上、秋山委員、荒木委員、鶴飼氏、須賀委員、高橋委員、中尾参与、永山

委員、本間委員、森主査、八剣専門官、山内委員、山田委員、吉岡委員、事務局（五十音順）

引き続き議論を進め、研究領域の具体例については次回議論を行うこととなった。

（２）中間報告に向けて

具体に係る議論と並行して、中間報告に向けたとりまとめの議論を進めることとなった。適宜事務局から関連資料の説明を受けつつ意見交換・フリーディスカッションが行われた。以下の事項を中心に議論が行われ、概要以下のとおり。

中間報告骨子イメージ

- 事務局から資料の説明が行われた。基本的にこれを基に原案の作成作業に入ることとなった。RA 経費の有効活用など、これまで議論されたことが盛り込まれているとの意見があった。

博士課程に係る議論の整理素案、プロシーディングに係る議論の整理素案、社会人ドクターに係る議論

- 事務局から資料の説明が行われ、特に社会人ドクターの資料について、フリーディスカッション的に議論が交わされた。形態 A や今後ありうる形態 B についてはこれまで議論されてきたことである一方、形態 C の議論を契機として様々な議論がなされた。企業が研究者にドクターを取得させる動機に係る意見交換が行われた他、修士課程から就職すると同時に社会人博士課程に進学するという事例について共有があった。また、進学の際の学費については、自費負担と会社負担の場合があり、自費の場合に成功しやすいという意見などがあった。

（以上、秋山委員、鵜飼氏、高橋委員、永山委員、本間委員、森主査、八剣専門官、吉岡委員、事務局（五十音順）

次回から事務局が中間報告のドラフトを作成し議論がなされることとなった。

（３）その他

より広い形での研究コミュニティとの議論の共有・連携として 10 月に開催予定の CSS（コンピュータセキュリティシンポジウム）との連携方法について前回に引き続き議論が行われた。また、今後の作業の進め方についての確認が行われた。

以上